子ども教育学科 活動REPORT!

子ども教育学科では、日頃学んだ技術や考え方を磨くために、学内外を問わず、いろんな場所で活動を行っています。
その体験は、再び学びへと還元され、学生の力となっていきます。

熱意あふれる2年生が 子どもを楽しませる企画と空間作り! フィールドワーク

日頃培った学びを、大学祭や地域イベントで、最大限に発揮。

越前市いまだて芸術館で9/28（日）に開催された「子どもフェスティバル ちちんぷいぷいひらけゴマ Part4」に参加。ゲームや体験など様々なコーナーで子どもたちとともに楽しみました。また、10/25（土）、26（日）に行われた仁愛大学大学祭では、学内7つの会場で「7いろのせかい キッズワールド」を繰り広げました。

ほんかくにんじゃどうじょう

しゃぼんだまであそぼう

きょうふのたからさがし

森のうんどうかい

Snow White ～音楽の力を届けよう～

サイエンスワールド

おまつりわっしょい

VOICE

みんなの意見を、ひとつにできた実感。

子ども教育学科2年
岩田和音
（仁愛女子高校出身）

フィールドワーク全体のリーダーを担当しました。ひとつの企画を実施するにも学内外の様々な連携が必要で大変でしたが、仲間のおかげで良い結果が出せました!

地域の子どもに、実力を披露! 越前市ものづくりフェスタ

子ども教育学科ブース出展「アニメ絵本であ・そ・ぼ! ～動く絵本で読み聞かせ～」

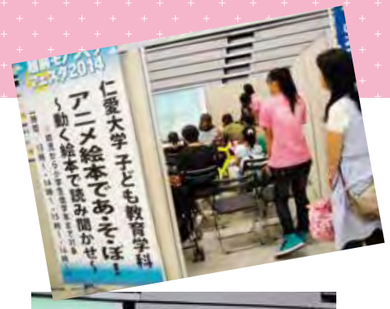
サンドーム福井で9/13（土）、14（日）、15（月・祝）に行われた「越前市ものづくりフェスタ」に参加。子ども教育学科のメンバーは独自のブースを出展し、パワーポイントによって、5～10分ほどのスライドを、プロジェクターでブース内のスクリーンに投影。歌や手遊びなども組み込みながら、読み聞かせを行いました。

VOICE

読み聞かせにおいて大切なことを学びました。

子ども教育学科1年
小島佳乃子（鯖江高校出身）

4つの物語を順に展開しました。随時、お子様連れのお客様に楽しんでもらえたように思います。気をつけたのは、近隣のブースの音が大きかったので、大きくはっきりと声を出すこと。また、「子どもの顔を見て読む」など、読み聞かせにおいて大切なことが学べました。実際に子どもの前で読み聞かせをした経験はあまりなかったので、大変、良い機会が得られました。



子ども教育通信 特大号

軟式野球部、全国2位!! 子ども教育学科の学生も大活躍。

祝

8月20日、長野オリンピックスタジアムで行われた『第37回全日本大学軟式野球選手権大会』において、仁愛大学軟式野球部が準優勝をおさめました。部員として、またはマネージャーとして、子ども教育学科の学生も、それぞれが輝きあふれる活躍をみせてくれました。

子ども教育学科3年
早﨑祐登
ピッチャー
（富山いずみ高校出身）

大好きな野球と、夢をつかむための勉強を、両立する日々。

みんなで声を出して、みんなで戦ったからこそ決勝まで行けたのだと思っています。これまでチームを引っ張ってこられた先輩たちと少しでも長い時間、一緒に出場できたのは何より嬉しかったです。思い出されるのは大会までの日々のこと。小学校教諭の勉強が中心となる3年次は1・2年次と比べてグンと忙しく、練習の途中で授業に抜けて、再び練習に戻るなど、ちょっとの間も惜しんでグランドに立っていました。小学校の先生になりたい夢と、大好きな野球。どちらも大切にして、これからも頑張りたいです。

マネージャーも応援!

練習の成果が出て、心から嬉しかった。

子ども教育学科3年
和田伊蕗 マネージャー（仁愛女子高校出身）

大会前、部員のみんなが頑張っていた姿をずっと見てきたので、準優勝という結果を残すことができて本当に良かったと思っています。特に大会中あまり打てていなかった部員にタイムリーヒットが出た時には、涙が出そうになりました。私は、マネージャーとしてできるだけ広い視野を持ってサポートをすることに努めていますので、この経験は、これから目指す保育士の仕事にもきっと活かせると感じています。

応援しながら、ずっと感動してました!

子ども教育学科1年
高崎純加 マネージャー（武生東高校出身）

自分でやるよりも応援することにやりがいを感じる自分。昔から野球が大好きで、マネージャーになりました。みんなが練習している姿を近くで見られるだけでも楽しいのですが、今回の大会ではさらにたくさん感動させてもらいました。大学の授業に部活にバイトに、と忙しい中でちゃんと実績を残す部員のみんなをもっと支えてあげられるように努力していきたいです。

今年も、先輩たちや先生たちが、仁愛大学へ帰ってきました!

ホームカミングデー 先輩に聞こう!

2014.10.26 @世灯祭

卒業生を支え続けるために。気軽に足を運べる場所づくり。

卒業生の支援を目的に、昨年から大学祭期間中に実施されているホームカミングデー。今年も、卒業生と退職した教員の方々が母校を久しぶりに訪れ、在学生および教員とともに同じテーブルを囲みました。会では、西村教授による認定こども園新制度についてのミニレクチャー、卒業生による近況報告スピーチを実施。職場での日々について語ったほか、在学生からの相談に助言を返すシーンもありました。卒業生が原点へ立ち返り、在学生が未来を考えるひとときは賑やかに過ぎていきました。

柔らかな雰囲気の中で、在学生からは日頃なかなか聞くことのできない質問がいくつも飛びだしていました。

ホームカミングデーに参加しました!

先輩の言葉からもらった勇気。

子ども教育学科4年
西行美希（仁愛女子高校出身）

参加したのは2回目です。今は保育士としての就職を半年後に控えている状態なので、先輩方のアドバイスは前回以上にとてもためになりました。先輩方のスピーチで特に印象に残っているのは、「楽しいことも苦しいこともひっくるめて、保育士の仕事の魅力」という言葉。おかげで、わくわくしながら覚悟して、先輩方と同じ舞台に登れそうです。

もっと後輩のためになれることを。

平成25年度卒業
坂井市施設職員・保育士
岡崎翔平（金津高校出身）

ホームカミングデーは本当にありがたい機会ですね。日頃の様々な悩みを先生に打ち明けられるし、普段はなかなか会えない友人たちの近況を聞くこともできます。ただ、今後は、社会で経験したことを「得ておくと有益な学び」として大学に還元するなど、もっと後輩のためになれないかなとも考えています。それが大学への恩返しだとも思いますので。

あのときを思う

2012年3月、岩手県陸前高田市の米崎保育園。あの頃を振り返る…。

「故郷への想いに気づいた」

平成25年度卒業
坂井市
みくに未来幼保園
小中美冬
（三国高校出身）

「視野を広げるきっかけになった」

平成25年度卒業
福井県社会福祉協議会
町づくり推進課
田中大士
（丸岡高校出身）

小中：被災地での保育ボランティアの記憶は今でも鮮明に残っていますが、もう2年前の話なんですね。

田中：この時をきっかけに、私は視野が広がりました。現地でいろんな人から話を聞いたことで、世の中にはいろんな人がいて、それぞれに悩みを抱えていることを知ったんです。それで、できれば多様な人々の暮らしを支える仕事がしたいと考えるようになりました。

小中：私も影響を受けました。福井に戻ってから、福祉の仕事や、東北地方で保育の仕事に就くことを考えたりしました。でも、やっぱり故郷が好きだし、身近な場所でこそ役に立ちたいと思って、地元の保育士を志したんです。

田中：素晴らしいことじゃないでしょうか。確かに、もっと東北の人たちの役に立ちたい想いはあるけれど、まず、生まれ育った故郷を支えていく責任が私たちにはあると思います。まだ仕事は全然できないですが、早く地元の人たちの暮らしに役立てるようになりたいです。実は、ここだけの話、当時この紙面に載るのはイヤだったんです。こういった形で報告するためにボランティアしたわけではなかったので。でも、今は、載せてもらって良かったと思っています。

小中：そうですね。震災から3年たって、情報の風化はどんどん進むばかりなので、被災地に行った者として、行ってない人たちに“伝える”ことは、私たちの責任ですから。

子ども教育通信 10

Q ボランティアの現場で、何を思いましたか?

「傷ついた子どもたちの心の声を、もっと受け止められるようになりたい」

仁愛大学

2012年6月 子ども教育通信